



**2026年度
第1四半期 決算報告**
2026年8月3日

1.決算総括

2.2026年度第1四半期 実績

3.2026年度 業績見通し

4.ビジネスハイライト

2026年度第1四半期 実績

- 中東情勢等の逆風が続く中においても、需要変化への柔軟な対応と回復局面を的確に捉えた事業運営により、増収増益を実現し計画通り進捗(営業利益：前年同期比+45億円)
- 中東情勢影響は▲15千台、期初想定の範囲内。中東向け出荷は、代替輸送ルートの確保を進め、6月より再開
- 売上高6,199億円/営業利益101億円/当期純利益14億円

2026年度通期見通し

- 先行き不透明感は継続しているものの、第1四半期実績を踏まえ期初見通しを据え置く
- 情勢変化への柔軟な対応により販売機会を逃すことなく、需要を着実に取り込む
- FY25下期投入モデルの仕向け地拡大を進めるとともに、新型『パジェロ』を成功裏にローンチし、更なる販売拡大を図る
- 継続的なコストマネジメントと収益改善施策を通じ、事業体質の強化を進める

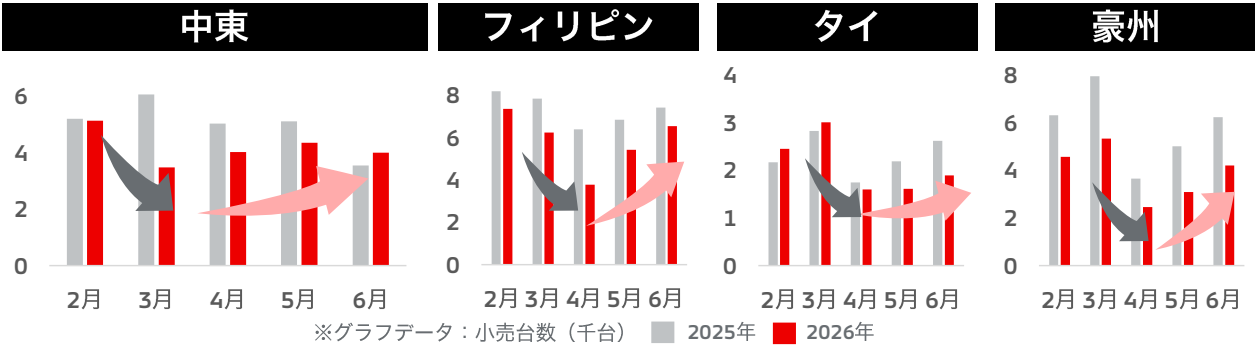
このたびの熊本地方で発生した地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地域の日も早い復旧・復興と皆様の安全をお祈り申し上げます。

2026年度第1四半期は、中東情勢の影響や市場環境の変化があったものの、販売施策の強化や各種収益改善施策の効果により、増収増益を達成しました。当期利益も黒字を確保し、概ね計画どおりに進捗しております。

売上高は前年同期比108億円増加し、営業利益は45億円改善いたしました。

なお、中東情勢による影響については次ページでご説明いたします。

通期見通し達成に向けては、市場変化に機動的に対応しながら販売機会を確実に取り込み、昨年度下期投入モデルの仕向け地拡大および新型『パジェロ』の成功裏なローンチにより販売計画の達成を目指してまいります。



	Q1	Q2以降
販売	台数影響▲15千台、▲100億円 →想定の範囲内で推移	Q2以降は影響は限定的となる見込み
コスト	代替輸送手段活用により輸送費高騰、 原材料価格高騰 →▲20億円	輸送費高騰、原材料市況高止まり影響は 年度を通じて継続する見込み

第1四半期中の中東情勢影響は、販売面で約15千台、営業利益に対して約100億円の影響、加えて物流費を中心に約20億円のコスト影響がありました。これらは期初に織り込んでいた年間影響300億円の範囲内で推移しております。

フィリピンでは燃料不足や価格高騰の影響により一時的に需要が大幅に減速しましたが、足元では市況に回復の兆しが見られております。タイ及び豪州では、燃料価格高騰を背景とした電動車シフトの加速に加え、市場競争も激化しており、引き続き厳しい販売環境が継続しております。

また、物流費上昇や原材料市況高止まりによるコスト影響は今後本格化する見込みです。引き続き各市場の状況を注視しながら、影響の最小化に努めてまいります。

1.決算総括

2.2026年度第1四半期 実績

3.2026年度 業績見通し

4.ビジネスハイライト

2026年度第1四半期 業績サマリー【前年同期比】



(億円、千台)	FY2025 1Q (2025年4-6月)	FY2026 1Q (2026年4-6月)	増減	
			差異	率
売上高	6,091	6,199	+108	+2%
営業利益 (利益率)	56 (0.9%)	101 (1.6%)	+45 (+0.7pp)	+80%
経常利益	48	97	+49	+102%
当期純利益*	7	14	+7	+100%
小売販売台数	194	179	-15	-8%

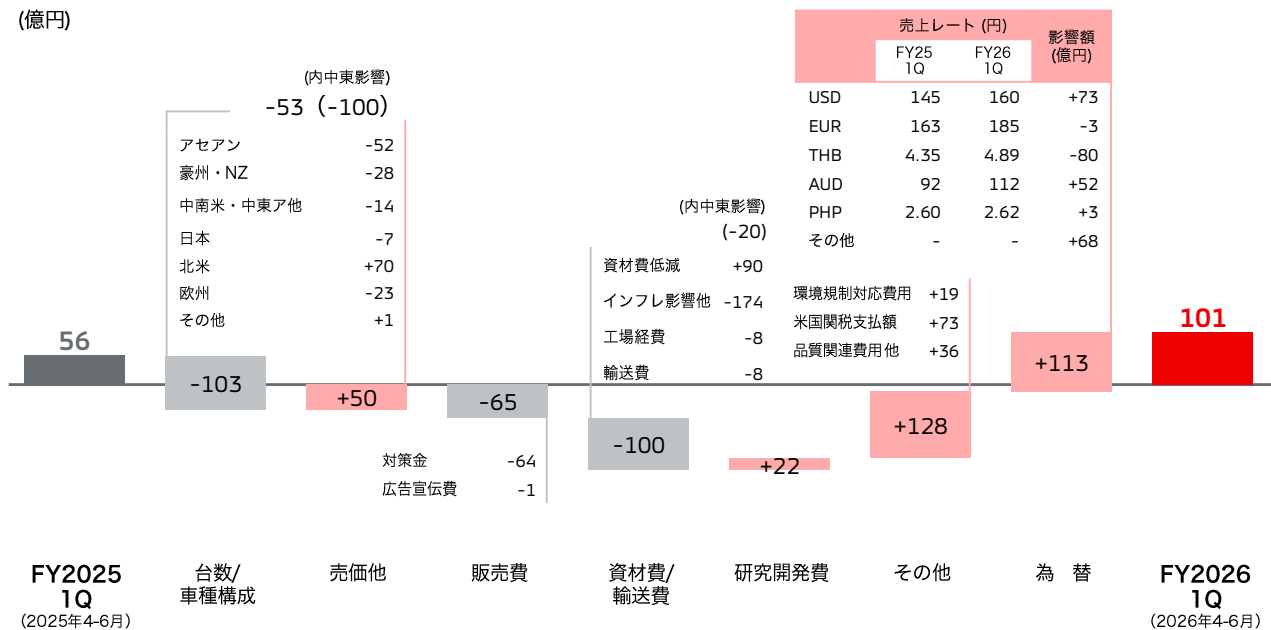
* 親会社株主に帰属する当期純利益

2026年度第1四半期は、中東情勢の緊迫化に加え、燃料価格の高止まりや金利上昇の影響を受け、中東やアセアン、豪州などで需要が軟化し、市場競争も激化しました。

こうした環境下においても、当社は機動的な販売活動と収益改善施策を推進し、増収増益を達成いたしました。

売上高は、前年同期比で2%増、営業利益は、同80%増の101億円。経常利益は97億円、当期純利益は14億円を確保いたしました。一方で、小売販売台数は、前年同期比8%減、179千台となりました。

2026年度第1四半期 営業利益変動要因分析【前年同期比】



台数/車種構成及び売価他については、中東情勢影響等による販売台数減少があったものの、継続的な売価改善により一部を吸収し、53億円の減益要因となりました。うち、中東情勢影響額は、100億円程度ございました。

販売費は、市場競争環境の激化に伴う対策金の積み増し等により、全体では65億円の減益要因となりました。

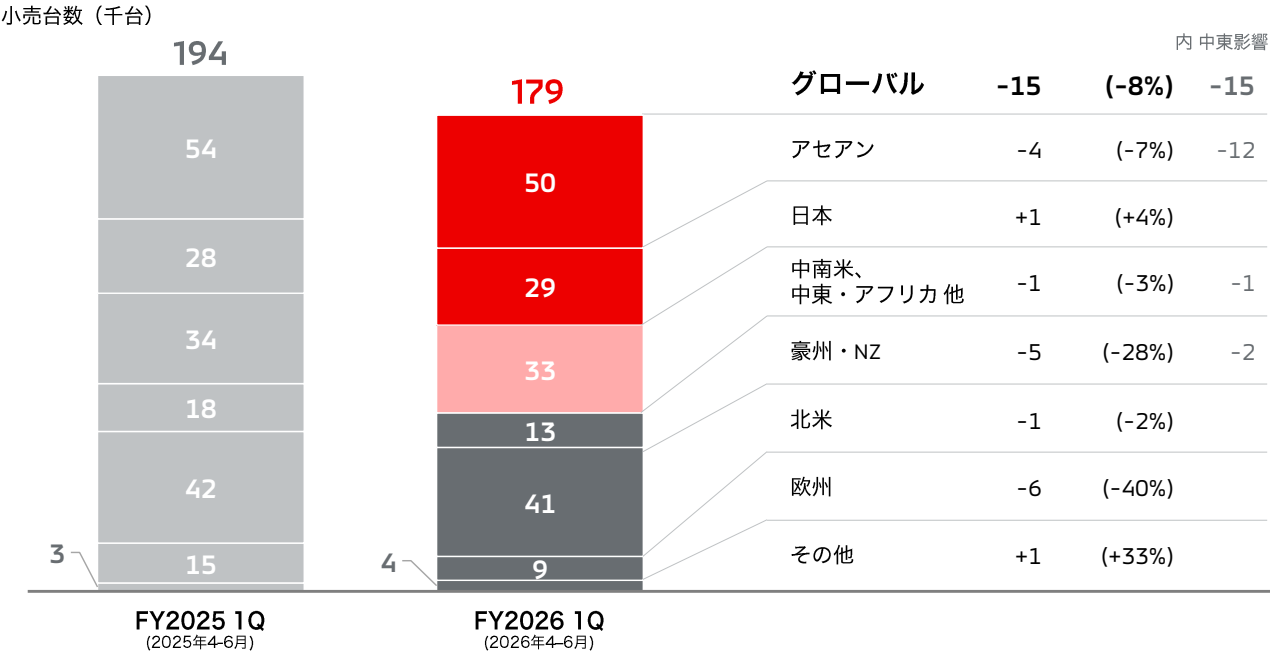
資材費/輸送費については、継続的なコスト低減活動を進めたものの、インフレ影響や輸送費高騰によるコスト増を補えず、全体として100億円の減益要因となりました。うち、中東影響によるコスト悪化は、20億円程度です。

一方、研究開発費は改善し、その他項目についても米国関税支払額の減少や、環境規制対応費用の抑制等により、増益要因となりました。

また、為替は、円安傾向で推移したこともあり、113億円の増益要因となりました。

以上の結果、営業利益は前年同期比45億円増の101億円となりました。

2026年度第1四半期 小売販売台数実績【前年同期比】



第1四半期は中東情勢の影響を受け、グローバル販売台数は前年同期比8%減の179千台となりました。

中東影響の大きかった地域は、アセアン、中東、豪州で15千台減少しました。

中東影響を除くと前年並みとなりますが、増減それぞれ要因がございます。
豪州・欧州・北米中心に、販売終了モデルの影響により、21千台減少。
一方、昨年度下期投入の『デスティネーター』など新型車効果でアセアン中心に17千台増加、さらに北米中心に既存モデルの拡販により4千台増加。販売終了モデルによる減少を新型車効果と既存モデルの販売増で挽回しております。

日本

	小売販売台数	
	FY2025/1Q	FY2026/1Q
日本	28千台	→ 29千台
登録車	11千台	→ 14千台
軽自動車	17千台	→ 15千台



デリカ D:5

- 登録車：新型『デリカD:5』等の販売モメンタムが継続し、前年を上回る実績
 - 軽自動車：前年の一時的な台数増の反動により減少するも、受注は堅調に推移
- ➡店舗ネットワーク拡大・既存店リニューアル等を通じブランド・販売基盤強化を推進

日本市場では底堅い需要環境が継続する中、当社はデリカシリーズを中心に市場需要を着実に取り込み、前年同期を上回る販売実績となりました。特に、『デリカミニ』の投入を契機としたブランド力向上により、『デリカD:5』との相乗効果が生まれ、デリカシリーズ全体の販売拡大につながっています。

今後は、新型『パジェロ』を成功裏に立ち上げるとともに、デリカシリーズをはじめとする主力車種の販売を一層強化し、日本市場でのプレゼンス拡大を加速してまいります。

アセアン・オセアニア

小売販売台数・マーケットシェア（当社調べ）

	FY2025/1Q		FY2026/1Q	中東影響
アセアン	54千台	→	50千台	-12千台
タイ	7千台 (4.4%)	→	5千台 (3.1%)	-2千台
インドネシア	15千台 (8.5%)	→	16千台 (7.1%)	-3千台
フィリピン	21千台 (18.3%)	→	16千台 (16.2%)	-7千台
ベトナム	8千台 (11.4%)	→	10千台 (14.4%)	
その他	3千台	→	3千台	
オセアニア	18千台	→	13千台	-2千台



デスティネーター

- アセアン ： 中東影響を受ける中、独自商品群・販売施策により相対的に堅調に推移
- オセアニア：販売終了モデルの影響を受け減少

➡商品力・価値訴求力の強化を通じて販売拡大を追求

アセアン・オセアニアでの、中東情勢関連影響は、スライドにお示ししているとおり、14千台程度です。これに加え、燃料価格高騰を背景とした電動車シフトの加速や、中国OEMによる価格攻勢などにより、競争環境は想定以上に厳しい状況となりました。

フィリピンでは、3月に緊急事態宣言が発せられ需要が急減速した影響で、4月は対前年40%減と大きく落ち込みましたが、5月以降は回復基調にあります。

当社の強みを活かした商品ラインアップへの評価は引き続き高く、販売環境にも一部改善の兆しが見られます。

今後は、引き続き過度な価格競争とは一線を画し、商品価値とブランドを軸とした販売を徹底してまいります。そして、下期投入予定の新型『パジェロ』につなげてまいります。

中南米・中東アフリカ

小売販売台数

	FY2025/1Q		FY2026/1Q	中東影響
中南米・中東ア 他	34千台	→	33千台	-1千台
中南米	17千台	→	17千台	
中東ア 他	17千台	→	16千台	-1千台



トライトン

- 中南米 ：主力モデルの価値訴求強化と新型『デスティネーター』効果により前年並みを維持
- 中東ア 他：中東情勢悪化を受け需要は減少するものの、影響を最小化
- ➡ SUV・オフロード商品群への注力を通じ、ブランドプレゼンス向上と販売拡大を推進

中南米では、中国勢の攻勢などにより競争環境が厳しさを増す中でも、主力モデルの価値訴求強化や新型『デスティネーター』の投入効果などにより、前年並みの販売水準を維持いたしました。今後も、主力商品の価値訴求強化やラインアップ拡充を通じて、更なる販売拡大を目指してまいります。

中東では、中東情勢の影響により一時的な需要減速が見られたものの、期初から十分な在庫を確保していたことに加え、市場回復が想定以上のペースで進んだことから、前年並みの販売実績を確保いたしました。足元の6月単月販売では、前年を上回る水準まで回復しており、今後は安定供給の確保と新型車の販売拡大を通じて、更なる成長につなげてまいります。

北米・欧州

小売販売台数			
	FY2025/1Q		FY2026/1Q
北米	42千台	→	41千台
欧州	15千台	→	9千台



アウトランダー

- 北米：『ミラージュ』販売終了も、各種施策により前年並を確保
 - 欧州：継続モデルは伸長するも、販売終了モデル影響により減少
- 不確実性が高まる中、柔軟な戦略と機動力で、変化に強い事業運営を構築

北米では、需要環境は底堅く推移している一方、競争環境は引き続き厳しい状況が続いております。そのような中、『ミラージュ』の販売終了影響はあったものの、主力モデルの『アウトランダー』『アウトランダースポーツ』の販売増で打ち返し、前年並みを確保しております。

一方、欧州では量販モデルの販売終了影響に加え、競争環境の激化もあり前年を下回る実績となりました。今後は、コアモデルの商品価値訴求強化に加え、市場環境の変化を的確にとらえながら、規律ある販売戦略とマーケティング強化を通じて、持続的な成長基盤を構築してまいります。

1.決算総括

2.2026年度第1四半期 実績

3.2026年度 業績見通し

4.ビジネスハイライト

2026年度 業績見通し【前年度比】



(億円、千台)	FY2025 (2025年4月-2026年3月)	FY2026 見通し (2026年4月-2027年3月)	増減	
			差異	率
売上高	28,965	32,600	+3,635	+13%
営業利益 (利益率)	755 (2.6%)	900 (2.8%)	+145 (+0.2pp)	+19%
経常利益	789	800	+11	+1%
当期純利益*	100	250	+150	+150%
1株当たり配当 (円)	¥10	¥10		
小売販売台数	797	857	+60	+8%

* 親会社株主に帰属する当期純利益

今後も事業環境の先行きは予断を許さず、市場競争は一段と厳しさを増すものと認識しております。

一方で、第1四半期は厳しい環境下においても増収増益を確保し、計画に沿って着実に進捗することができました。こうした足元の進捗も踏まえ、現時点では期初に発表した通期業績見通しを据え置くことといたしました。

中東情勢に起因する、物流費上昇や原材料市況高止まりによるコスト影響は今後本格化する見込みです。これを打ち返すべく、市場変化に機動的に対応しながら販売機会を確実に取り込みます。

『デスティネーター』など昨年度下期投入モデルの仕向け地拡大および販売促進を図り、収益性の高いアセアン戦略車の販売比率を高めていきます。

下期には、いよいよ新型『パジェロ』を投入します。万全に準備しローンチを成功させ、販売全体の勢いを加速させます。

新型車や上位モデルを中心とした販売構成へのシフトを進め、台当たりの収益水準を高めることで、台数の拡大に過度に依存することなく、しっかりと収益を生み出せる事業構造の構築を進めてまいります。

1.決算総括

2.2026年度第1四半期 実績

3.2026年度 業績見通し

4.ビジネスハイライト

新型車の販売拡大



デスティネーター



- 中東情勢悪化影響ある中でも、販売国・台数は順次拡大
- 投入済みの各国では、いずれもセグメントシェア上位と好調に推移

エクスフォース



- HEVモデルを7月16日よりインドネシアに投入。以降順次展開予定

デリカD:5・デリカミニ



- 『デリカD:5』
小売販売台数前年同期比1.5倍
- 『デリカミニ』
継続的なマーケティング施策により商品鮮度を維持

計画通り展開地域を拡大、販売本格化により更なる伸長を目指す

16

各重点モデルとも概ね計画に沿って進捗しており、市場投入や販売地域拡大を着実に進めております。

『デスティネーター』は、中東情勢による不透明感が残る中でも販売国の拡大を徐々に進めており、投入した各国でセグメントシェア上位に食い込むなど、好調に推移しております。

『エクスフォース』はHEVモデルを、タイに続き7月よりインドネシアでも販売を開始いたしました。今後も需要に応じて、投入国を順次拡大してまいります。

『エクспанダー』を含めたアセアン戦略車3モデルは、第一四半期実績で前年同期比28%増の42千台と計画どおり伸長しており、当社販売全体の24%を占める重要モデルに成長しております。

また、『デリカD:5』、『デリカミニ』については、モデルチェンジ後も、継続的なマーケティング活動により高い商品鮮度を維持しており、デリカブランドの価値向上も着実に進展しております。



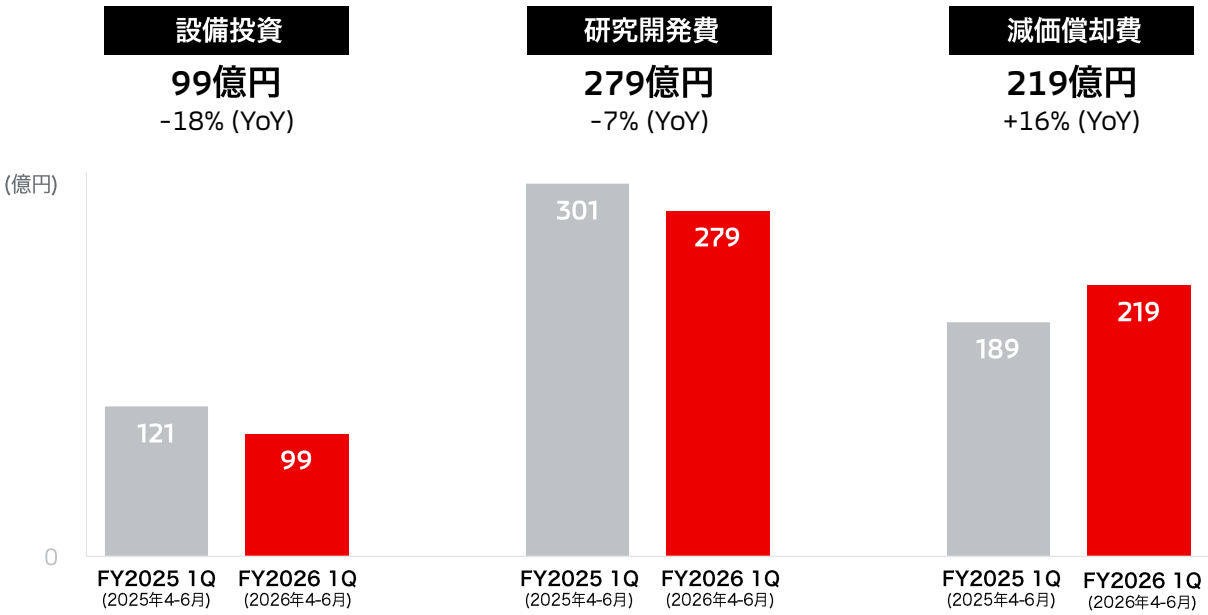
APPENDIX

2026年度第1四半期末 バランス・シート 【前年度末比】



(億円)	FY2025 (2026年3月末)	FY2026 1Q (2026年6月末)	増減
資産合計	24,181	23,135	-1,046
うち現金及び預金	4,389	3,070	-1,319
負債合計	14,548	13,519	-1,029
うち有利子負債	3,954	4,136	+182
純資産合計	9,633	9,616	-17
自己資本 (自己資本比率)	9,195 (38.0%)	9,163 (39.6%)	-32
ネットキャッシュ 【自動車事業及び消去】	4,062	2,697	-1,365

2026年度第1四半期 設備投資・研究開発費・減価償却費



2026年度第1四半期 地域別業績【前年同期比】



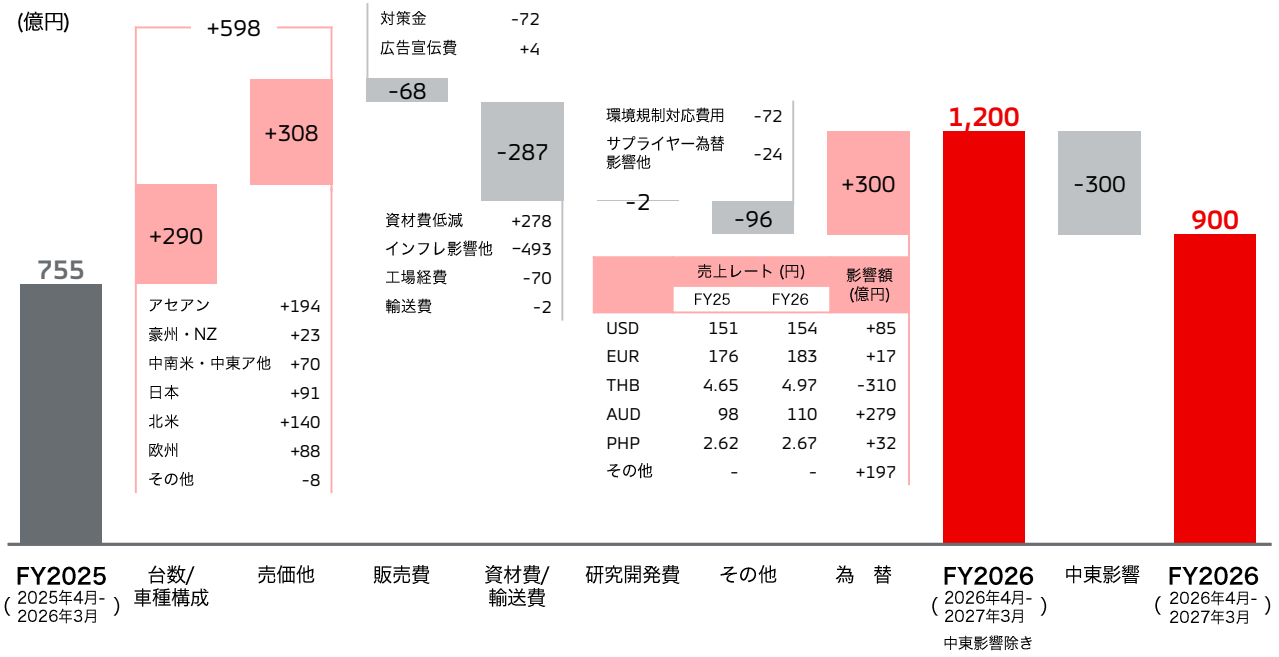
(億円)	売上高			営業利益		
	FY2025 1Q (2025年4-6月)	FY2026 1Q (2026年4-6月)	増減	FY2025 1Q (2025年4-6月)	FY2026 1Q (2026年4-6月)	増減
合計	6,091	6,199	+108	56	101	+45
- アセアン	1,270	1,077	-193	55	23	-32
- 豪州・NZ	612	627	+15	-31	-6	+25
- 中南米、 中東・アフリカ 他	916	798	-118	17	4	-13
- 日本	1,492	1,629	+137	22	22	±0
- 北米	1,486	1,798	+312	-30	57	+87
- 欧州	308	255	-53	22	-3	-25
- その他	7	15	+8	1	4	+3

2026年度 売上高見通し【前年度比】



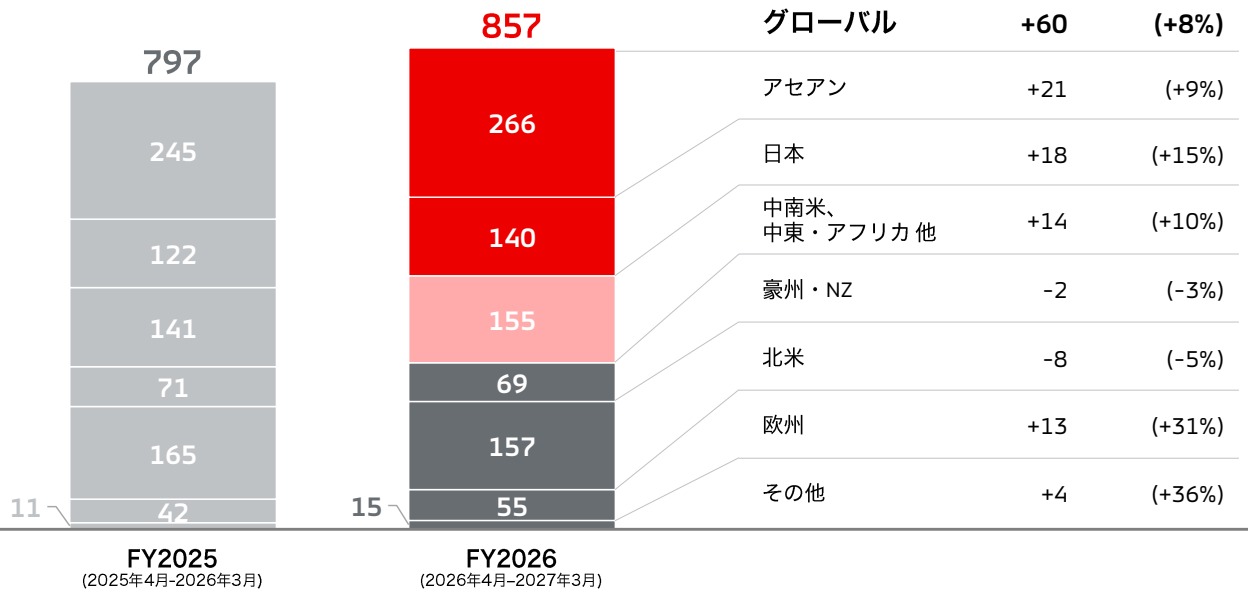
(億円)	FY2025 (2025年4月-2026年3月)	FY2026 見通し (2026年4月-2027年3月)	増減
合計	28,965	32,600	+3,635
- アセアン	6,135	7,100	+965
- 豪州・NZ	2,860	3,350	+490
- 中南米、 中東・アフリカ 他	4,528	4,600	+72
- 日本	6,594	7,650	+1,056
- 北米	6,617	7,100	+483
- 欧州	2,120	2,700	+580
- その他	111	100	-11

2026年度 営業利益見通し変動要因分析【前年度比】

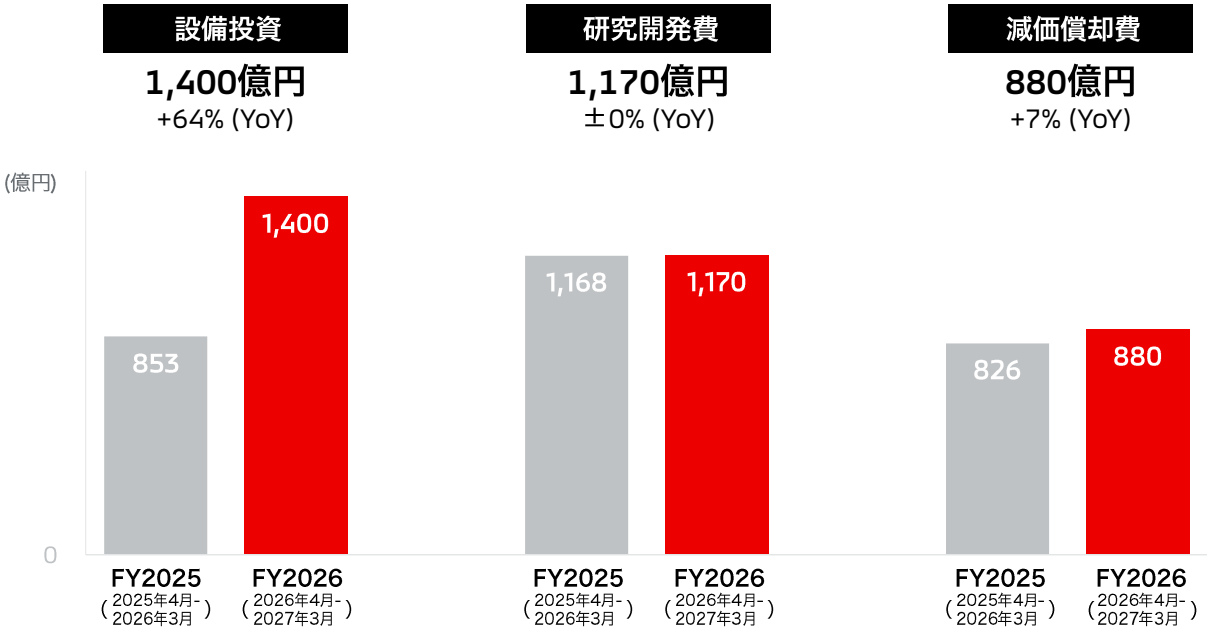


2026年度 小売販売台数見通し【前年度比】

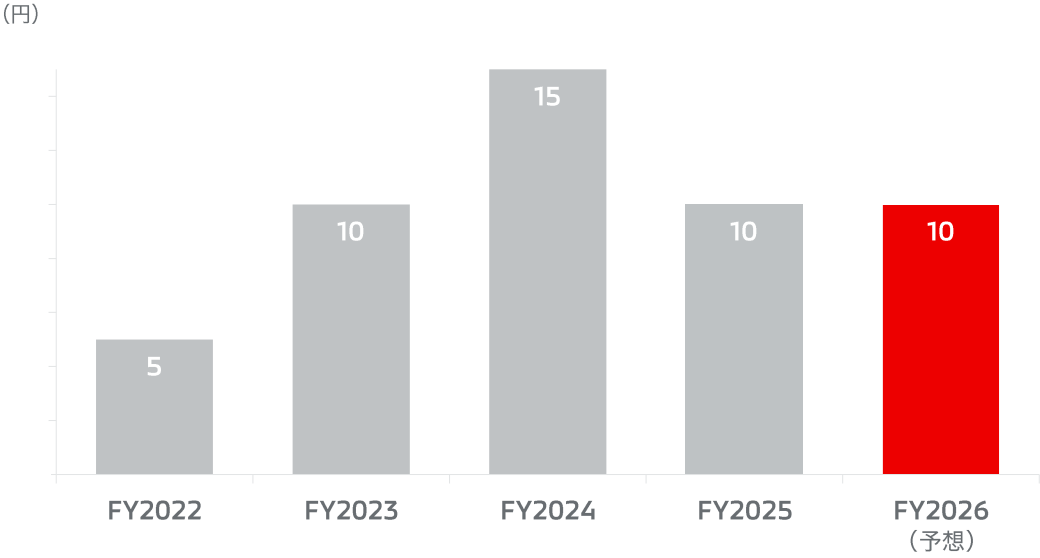
小売販売台数（千台）



2026年度 設備投資・研究開発費・減価償却費見通し



1株当たり配当金: 10円（見通し）



本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、リスクと不確実性を含んでおります。従いまして、今後の当社グループの事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、金利・為替の変動、関係法令・規則の変更可能性等により、実際の業績がこれらの記述と大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

なお、潜在的リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんので、ご注意ください。また、当社は、将来生じた事象を反映するために、本資料に記載された情報を更新する義務を負っておりません。投資に関する最終的な決定は、投資家の皆様ご自身の責任をもってご判断ください。本資料に記載されている情報に基づき投資された結果、何らかの損害が発生した場合でも、当社は責任を負いかねますので、ご了承ください。